

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の中間評価の方法（案）

1. 評価、検討の方法について

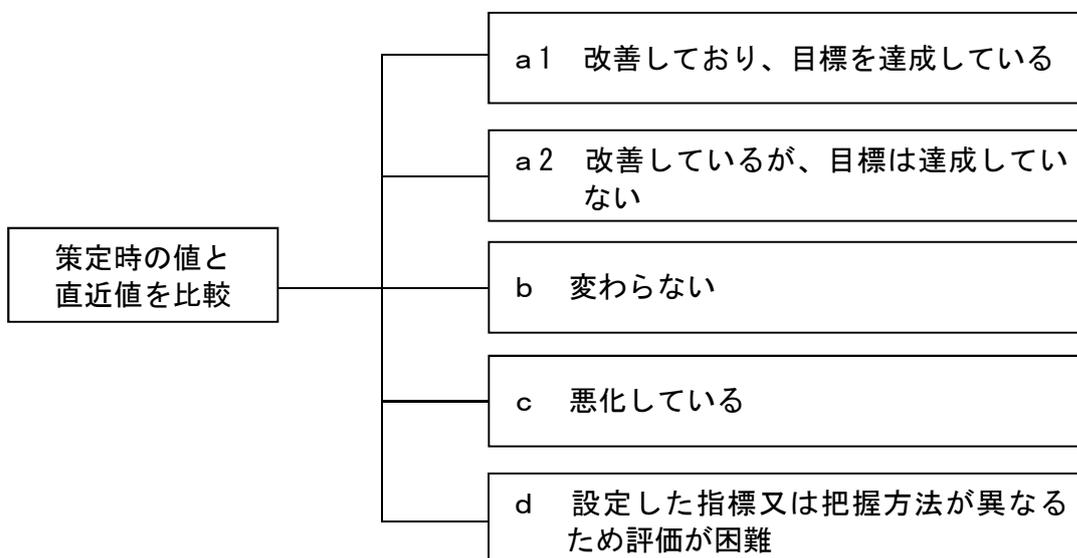
<基本的考え方>

目標に対する実績や取組の評価を行うとともに、その評価を通して値の動きや特徴的な取組について“見える化・魅せる化”する工夫を行う。

これらの評価結果を踏まえ、今後の社会状況の変化等も見据え、重点的に取り組むべき課題を検討する。

(1) 指標ごとの評価について

- 指標（19 項目）について、計画策定時の値と直近の値を比較し、分析上の課題や関連する調査・研究のデータの動向も踏まえ、目標に対する数値の動きについて、分析・評価を行うこととしてはどうか。また、すでに目標を達成している目標については、目標値の見直しを行うこととしてはどうか。
- 具体的方法としては、以下の①～②の手順で、分析・評価を行うことでどうか。
 - ① 直近値に係るデータ分析
 - ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析。
 - ② 評価
 - ・直近の実績値が目標に向けて、改善したか、不変または悪化した等を簡潔に記載。
- 分析・評価の結果については、指標ごとに、別添の「評価シート」に記載することではどうか。
- 上記②の評価については、目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載した上で、以下のとおり、a1, a2, b, c, d の 5 段階で評価することによいか。



(2) 領域ごとの評価について

- 歯科疾患の予防における目標、生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上における目標等の領域ごとに、指標全体の評価とともに関連した取組を整理し、今後の課題を検討することとしてはどうか。
- 指標の状況については、a1, a2, b, c, dの5段階で評価した項目数を整理するとともに、指標全体の評価を簡潔に記載することとしてはどうか。
- 関連した取組については、国、自治体、企業や団体の取組で、特徴的なものを整理し、評価を行うこととしてはどうか。また、口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小に向けた取組や社会環境の整備については、複合的な取組が一体となって進んでいくので、必要に応じ取組全体が理解できるような整理をしてはどうか。

(3) 今後取り組むべき課題について

- 実績値の評価、諸活動の評価を踏まえつつ、今後の社会状況の変化を見据え、重点的に取り組むべき課題について検討し、整理していくことでどうか。また、取り組むべき課題には、調査・研究もその一つとして含めてはどうか。

指標(目標項目)ごとの評価シートの例

目標項目 ○○○○○○○○		
目標値	策定時のベースライン値 (平成○年 △△調査)	直近の実績値 (平成×年 △△調査)
	コメント	
	ベースライン値と直近値の分析、特徴 (性、年齢など)を踏まえた分析	
①直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析		
②評価 ・直近の実績値が目標に向けて、良くなっているか、悪化したか等を簡潔に記載。		※a1,a2,b,c,dのいずれかで評価

領域ごとの評価のとりまとめの例

領域名 ○○○○○

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較	項目数
a1 改善しており、目標を達成している	
a2 改善しているが、目標は達成していない	
b 変わらない	
c 悪化している	
d 設定した指標又は把握方法が異なるため評価困難	

※指標全体の評価を簡潔に記載。

イ. 関連した取組

ウ. 今後の課題

地域格差の解消を目指したう蝕予防の推進

〈目標〉

- ① 3歳児でう蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加(23都道府県)
- ② 12歳児の一人平均う蝕数が1.0未満である都道府県の増加(28都道府県)

〈直近値〉

- ① 26都道府県(平成25年)
- ② 25都道府県(平成27年)

〈計画策定時の値〉

- ① 6都道府県(平成21年)
- ② 7都道府県(平成23年)

専門職種の取組

- 小窩裂溝填塞法(シーラント)
※幼若永久歯や乳歯の小窩裂溝の填塞
- PMTC: Professional Mechanical Tooth Cleaning
※歯科用の切削回転器具と及び研磨用ペーストを用いて行う歯垢除去等
- フッ化物歯面塗布
- 歯科保健指導
※口腔清掃、食事・間食等に関する指導等

自治体の取組

- 実態の把握から明確化した課題解決へのアプローチ
- 定期的な歯科健診・保健指導の実施
※乳幼児歯科健診、学校歯科健診等
- 歯科保健教育の実施
- フッ化洗口等の実施

【佐賀県の取組例】

- フッ化物入り歯磨剤の利用促進
- フッ化物塗布、フッ化物洗口の実施
- 食育を通じた口腔機能の育成支援
- 学校歯科保健活動の推進
- かかりつけ歯科医を通じたセルフケアの勧奨

- ① 3歳児でう蝕がない者の割合
平成21年 62.4% → 平成26年 74.2%
- ② 12歳児の一人平均う蝕数
平成21年 1.2本 → 平成27年 0.60本

住民の取組

- 清掃用具の選択(歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ等)
- 歯磨剤等の選択(フッ化物配合歯磨剤、洗口液等)
- 食事及び生活環境の改善(砂糖含有食品の回数・量の摂取制限、代用甘味料の利用)

学会の取組

- 新たなう蝕診断基準の開発※ICDAS: International Caries Detection and Assessment System
- 政策声明「う蝕のない社会の実現に向けて」

国の取組

- 8020運動・口腔保健推進事業の実施
※歯科疾患予防・食育推進等口腔機能維持向上事業
- 歯科疾患実態調査の実施
※フッ化物応用の経験、歯磨きの頻度、歯磨き以外のセルフケア